

Museum Info 2023

ミュージアム・インフォメーション



2023年度の山梨県立美術館・文学館・博物館・考古博物館の展覧会の予定をご案内します。

※展覧会の名称は変更となる可能性があります。

※予定を変更する可能性があります。最新の情報につきましては、各館HPをご参照ください。



企画展

印章 一刻まれてきた歴史と文化

2023年3月11日(土)～5月8日(月)

山梨県における印章産業は、水晶印に篆刻を行ったことから始まったといわれ、現在では全国一の生産量を誇ります。近年、デジタル化・オンライン化が進展する中で注目を集める印章ですが、こうした時代だからこそ、印章の役割や未来のあり方などについて歴史的、文化・芸術的な広い視点で改めて紹介し、考える機会とします。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ()内は団体料金



左:「龍朱印」(山梨県立博物館蔵「武田家朱印状」より)

右:金印「漢委奴国王」(国宝 福岡市博物館蔵 展示は3/21まで)



企画展 御嶽昇仙峡国名勝指定100周年記念 クリスタル・ロード

2023年4月15日(土)～6月11日(日)

山梨の特産品である水晶利用の歴史をクローズアップ! 旧石器・縄文時代の水晶加工遺跡や水晶製の石器をはじめ、古墳時代の装身具、現代の原石標本にいたるまで、3万年以上に渡る山梨の人々と水晶とのかかわりを考古資料から探っていきます。尚、会期中には山梨ジュエリーミュージアムとの連携体験イベントも実施予定ですのでお楽しみに!

□観覧料／無料



水晶
上コブケ遺跡 縄文時代
(山梨県立考古博物館蔵)



望月春江《惜春》1978年 山梨県立美術館蔵

開館45周年記念特別展 コレクションREMIX

2023年4月22日(土)～6月11日(日)

山梨県立美術館は開館以来、館の根幹となるコレクションの充実を図ってきました。本展ではコレクション内の優品を展示し、コレクションを活用した様々なイベントを開催します。当館の大黒柱である収蔵作品と、新たな鑑賞方法等を掛け合わせる、いわばコレクションの「リミックス」とおとして、美術館の可能性を探ります。

□常設展観覧料でご覧いただけます。

一般520円(420円)、大学生220円(170円) ()内は団体料金



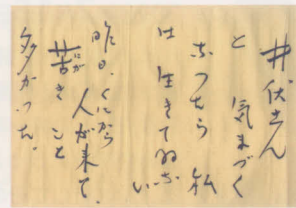
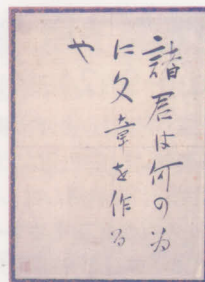
特別展示 文豪の筆跡 一館蔵の名品から

2023年5月1日(月)～6月11日(日)

書は人なり一書いた文字には、その人の性格や人柄が表れるといいますが、森鷗外、夏目漱石、谷崎潤一郎、芥川龍之介、太宰治など、文学史にその名を残した文豪たちは、どんな文字を書いていたのでしょうか。収蔵資料から名品を選び抜き、作家たちの筆跡の魅力をご観覧いただくと共に、ひとつひとつにひそむドラマチックな背景を紹介します。

□常設展観覧料でご覧いただけます。

一般330円(260円)、大学生220円(170円) ()内は団体料金



左:芥川龍之介筆「諸君は何の為に文章を作るや」 右:太宰治書簡 井伏鱒二宛(部分)



シンボル展

国名勝指定100周年記念 甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡

2023年5月27日(土)～6月26日(月)

御嶽昇仙峡は、優れた景観を持つだけでなく、その最奥に位置する金峰山への山岳信仰や、国内有数の産出量を誇った水晶とその研磨産業など文化的遺産も豊富で、現在のわたしたちの命と暮らしを支える清らかな水がめでもあります。本展では御嶽昇仙峡と地域の人々が守り育んできた景観や文化のあゆみをご紹介してまいります。

□常設展観覧料でご覧いただけます。

一般520円(420円)、大学生220円(170円) ()内は団体料金



左:「御嶽道絵巻」(部分) (山梨県立博物館蔵)

右:「御嶽昇仙峡」絵葉書 (山梨県立博物館蔵)



夏
summer

開館45周年記念特別展 ミレー展

2023年7月1日(土)～8月27日(日)

産業革命以降、急速に近代化が進展する中、ミレーは、自然と共に生きる農民の営みを描き続けました。人の営みが様々な観点から見直される現代において、ミレーの描いた作品世界から、私たちは何を感じ取ることができるのでしょうか。本展は、ミレーの作品と、私たちと同じ時代を生きる現代美術作家の作品を展覧し、その共鳴により、作品の多様な解釈を開く試みです。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円)
()内は団体料金

ジャン＝フランソワ・ミレー 〈種をまく人〉
山梨県立美術館蔵



美術館

開館40周年記念特別展 日本遺産星降る中部高地の縄文世界

2023年7月8日(土)～9月3日(日)

縄文時代、山梨・長野を中心とした中部高地では、信州産黒曜石の交易が盛んに行われ、その繁栄を背景に優れた造形美を誇る土器や土偶が数多く生み出されました。

本展では、日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」として認定された貴重な文化財や交流のあった地域の資料を一堂に集め、中部高地に華開いた魅惑の縄文ワールドをご覧ください。

□観覧料／一般・大学生600円(480円) ()内は団体料金



左:ヒスイ製大珠 天神遺跡 縄文時代 (山梨県立考古博物館蔵)
右:重要文化財 深鉢形土器 酒呑場遺跡 縄文時代 (山梨県立考古博物館蔵)



考古博物館



博物館



左:「妖怪たちの棲む森」©水木プロダクション 右:水木先生

企画展 水木しげる 魂の漫画展

2023年7月15日(土)～9月4日(月)

「ゲゲゲの鬼太郎」などで知られる日本漫画界の鬼才水木しげる。少年時代に見た「地獄極楽絵図」に心を奪われて以来、目に見えない世界を信じるようになり、不思議な世界を探求・表現し続けました。太平洋戦争で生死の境をさまよひ、極貧時代を乗り越え、独自の漫画表現に到達した水木の画業を、漫画原稿や原画、愛用の道具、多彩な映像資料で紹介します。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ()内は団体料金



企画展 ふしぎ駄菓子屋 銭天堂へようこそ

2023年7月15日(土)～9月24日(日)

「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」(偕成社)は、作:廣嶋玲子 / 絵:jyajyaにより2013年から刊行されている児童小説シリーズで、2022年、第3回「小学生が選ぶ! “こどもの本”総選挙」で、その第一巻が第一位を獲得しました。銭天堂(ぜにてんどう)の店主・紅子が、悩みや望みにぴったりのものをすすめてくれますが、食べ方や使い方を間違えると.....はたしてその駄菓子は幸運を呼ぶか、はたまた不幸をまねくか? 原画の展示や作品の舞台を再現する多彩なディスプレイで、銭天堂の世界をお楽しみください。

□観覧料／一般600円(480円)、大学生400円(320円) ()内は団体料金



写真提供/高知県立文学館 ©廣嶋玲子,jyajya/偕成社



文学館

山梨近代人物館

The Museum of
MODERN YAMANASHI HISTORICAL FIGURES

第17回「近代日本を駆け抜けた山梨の鉄道人たち」

令和5年3月25日(土)～9月18日(月)

第18回「わたしたちのまちの先駆者たち 峡北地域」

令和5年9月22日(金)～令和6年3月24日(日)

山梨近代人物館は、概ね明治時代から戦前までの間に、農林業、政治・経済、国際交流、教育、芸術、学術など幅広い分野で活躍した人物50人の中から、毎年2回ずつテーマに沿って9人の人物を紹介しています。第17回では山梨の鉄道人、第18回では峡北地域の先駆者をテーマに展示をします。貴重な文化財であり、また、時代を超える記憶が刻まれた県庁舎別館で、山梨県の発展を支えてきた幾多の先人たちからのメッセージを今、改めて紹介します。

山梨近代人物館 〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 県庁舎別館2階 TEL 055-231-0988
開館時間 / 午前9時～午後5時 休館日 / 毎月第2・第4火曜日、12月29日～1月3日 観覧料 / 無料



Museum Info 2023

ミュージアム・インフォメーション



美術館

開館45周年記念特別展 テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本

2023年9月9日(土)～11月5日(日)

人類史上に輝く繁栄を誇った古代ローマ。なかでも日本人が深い関心をよせるものの一つがテルマエ(公共浴場)であり、ヤマザキマリ氏による漫画「テルマエ・ロマエ」はテルマエへの親近感を高めました。本展では、同漫画の主人公シウスが案内人となり、古代ローマのテルマエとともに、日本の浴場文化も紹介します。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円)
()内は団体料金



左:《アポロとニンフへの奉納浮彫》

右:《恥じらいのヴィーナス(ウェヌス・プティカ)》

ナポリ国立考古学博物館蔵 Photos © Luciano and Marco Pedicini



考古博物館

企画展 発掘された日本列島2023

2023年9月16日(土)～10月29日(日)

全国各地で行われた最新の発掘成果を公開する文化庁企画の巡回展が27年ぶりに山梨にやってきます。本展では、近年発掘調査された遺跡の中から特に注目度の高い出土品を集め、日本の考古学研究の最先端をわかりやすく紹介します。

東日本では唯一の開催地となりますので、ぜひこの機会にご覧ください。

□観覧料／一般・大学生600円(480円) ()内は団体料金

国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳



博物館

企画展 小林一三生誕150年 宝塚歌劇の世界—清く、正しく、美しく

2023年10月14日(土)～12月4日(月)

日本のみならず世界的に多くの愛好者を持つ宝塚歌劇は、本県出身の実業家・小林一三により始められました。小林一三は、明治6年(1873)に現在の韮崎市に生まれ、令和5年(2023)に生誕150年を迎えます。本展では、小林一三の文化人としての側面について、宝塚歌劇の歩みや魅力を通じてご紹介します。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ()内は団体料金

左:小林一三(出典:近代日本人の肖像)

右:「阪急創立廿五周年記念 宝塚少女歌劇特別公演(パンフレット)」(個人蔵)



文学館



特設展 それぞれの源氏物語

2023年10月28日(土)～12月17日(日)

世界最古の長編小説と言われる「源氏物語」は、後世の文学、美術に多大な影響を与えてきました。本展では、与謝野晶子から、谷崎潤一郎、林真理子まで、多くの近現代の作家たちが挑んだ現代語訳や、源氏物語の魅力について語った言説を紹介、あわせて、コミックや演劇などへ広がり続ける源氏物語の魅力を紹介します。

「源氏物語」の現代語訳。左から谷崎潤一郎、瀬戸内寂聴、林真理子

□常設展観覧料でご覧いただけます。一般330円(260円)、大学生220円(170円) ()内は団体料金



美術館

開館45周年記念特別展 アーツ・アンド・クラフツとデザイン

2023年11月18日(土)～2024年1月21日(日)

アーツ・アンド・クラフツは、ウィリアム・モリス(1834～1896)が提唱した、生活と芸術の統合を理念とするデザイン運動です。産業革命後に職人技の復興をめざしたモリスの思想は、家具、織物、宝飾、建築など多様なジャンルに影響を与えました。本展では160点に及ぶ作品を通じてアーツ・アンド・クラフツ運動を紹介します。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ()内は団体料金

サーヴィル肘掛け椅子

Photo ©Brain Trust Inc.



考古博物館



人面装飾 安道寺遺跡 縄文時代
山梨県立考古博物館蔵

企画展 山の洲文化財交流展

2023年12月9日(土)～2024年1月21日(日)

山の洲(やまのくに)である山梨・静岡・長野・新潟の4県合同で交流展を開催します。各県が誇るイチオシ文化財を巡回展示することで、いにしえから多くの人や物が交流する交通の要衝として発展した「山の洲」の歴史を辿ります。

□観覧料／無料



冬
winter

シンボル展 帰ってきた芳年の道祖神祭幕絵

2024年1月20日(土)～2月19日(月)

小正月の甲府城下町を彩った甲府道祖神祭幕絵は現存3枚しか確認されておらず、大変貴重な資料です。浮世絵師の月岡芳年が描いた幕絵もそのうちのひとつですが、本展では令和3・4年度にかけて解体修理が行い、生まれ変わって帰ってきた本幕絵について、修理で得られた情報なども含めてご紹介します。



月岡芳年筆「甲府道祖神祭幕絵 太閤記 佐久間盛政羽柴秀吉を狙ふ」(山梨県立博物館蔵)

□常設展観覧料でご覧いただけます。一般520円(420円)、大学生220円(170円) ()内は団体料金



第21回わたしたちの研究室・研究成果展示会

2024年2月10日(土)～3月3日(日)

小中学生のみなさんが夏休みの期間や総合的な学習の時間に取り組んだ歴史・考古学に関する研究成果を展示公開します。

□観覧料/無料

展示会の様子



企画展 富士川水運の300年

2024年3月16日(土)～5月6日(月)

慶長年間、舟倉了以によって開削された富士川水運(舟運)は、江戸時代を通じてさまざまな物資や文化をもたらしました。明治時代に最盛期を迎え、昭和3年(1928)に身延線が全通するまで、甲斐・信濃の人々の生活を支える物流の大動脈であり続けたのです。本展では、1600年代初頭から1900年代前半に至る、およそ300年間の富士川水運の歴史についてご紹介します。



「富士川水運積荷木札」(山梨県立博物館蔵)



「富士川水運漕船着場」(山梨県立博物館蔵)

□観覧料/一般500円(400円)、大学生250円(200円) ()内は団体料金

※()：団体(20名以上)料金

観覧料のご案内	観覧料		常設展	特別展・企画展	定期観覧券(年間パスポート) 購入した日から1年間、常設展・企画展(特別展)を何回でも観覧できます。
	一般	大学生			
美術館	一般		520(420)円	当パンフレットに記載されている各展覧会情報をご覧ください。	3,140円
	大学生		220(170)円		1,570円
文学館	一般		330(260)円		1,570円
	大学生		220(170)円		790円
博物館	一般		520(420)円		2,100円
	大学生		220(170)円		1,050円
考古博物館	一般・大学生		220(170)円	1,360円	

ミュージアム甲斐in券 (4館共通定期観覧券)	
購入した日から1年間、美術館、文学館、博物館、考古博物館の全ての常設展・企画展(特別展)を何回でも観覧できます。	
一般	5,240円
大学生	2,620円

県内の65歳以上の方(県外65歳以上の方は常設展料金のみ)、障がい者および介護者ならびに、小・中・高校生等は、**無料**です。また、県民の日(11月20日)は、どなたでも**無料**です。

山梨県立美術館

〒400-0065 甲府市貫川1-4-27
TEL 055-228-3322
開館時間/9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)



山梨県立文学館

〒400-0065 甲府市貫川1-5-35
TEL 055-235-8080
開館時間/9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)



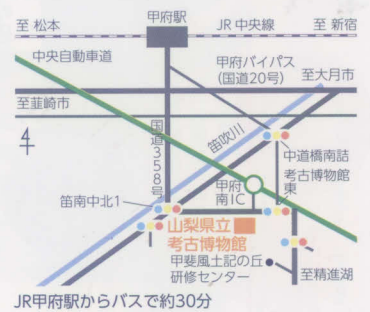
山梨県立博物館

〒406-0801 笛吹市御坂町成田1501-1
TEL 055-261-2631
開館時間/9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日/火曜日(祝日の場合はその翌日)



山梨県立考古博物館

〒400-1508 甲府市下曾根町923
TEL 055-266-3881
開館時間/9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)



山梨近代人物館
第17回展示

過去 | 未来



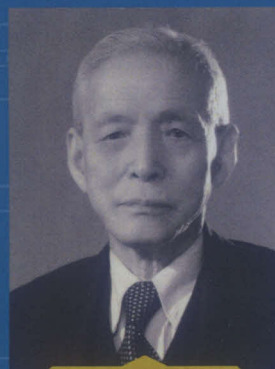
雨宮 敬次郎
Keijiro Amemiya



小野 金六
Kinroku Ono



河西 豊太郎
Toyotaro Kasai



小林 一三
Ichizo Kobayashi

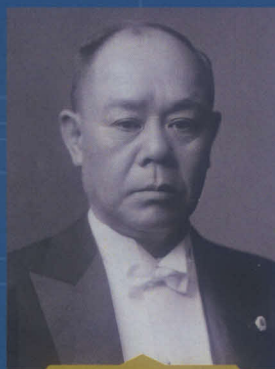
近代日本を駆け抜けた 山梨の鉄道人たち



根津 嘉一郎
Kaichiro Nezu



早川 徳次
Noritsugu Hayakawa



堀内 良平
Ryohei Horiuchi



若尾 逸平
Ippei Wakao



渡辺 青洲
Seishu Watanabe

2023.3/25(土) ~ 9/18(月)・祝

開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで) 休館日 第2・第4火曜日(その他臨時に休館する場合があります)※ 入館料 無料

山梨近代人物館

The Museum of
MODERN YAMANASHI HISTORICAL FIGURES

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1丁目6番1号

山梨県庁舎別館2階

TEL:055-231-0988 FAX:055-231-0991

<https://www.pref.yamanashi.jp/ykj/index.html>

写真提供: 東武博物館、阪急電鉄株式会社、富士急行株式会社、
山梨中銀金融資料館、個人蔵

ご来館時は感染症予防対策へご協力ください。状況により入館制限を行うことがあります。
※最新の情報はホームページ等でご確認ください。



HP



Facebook

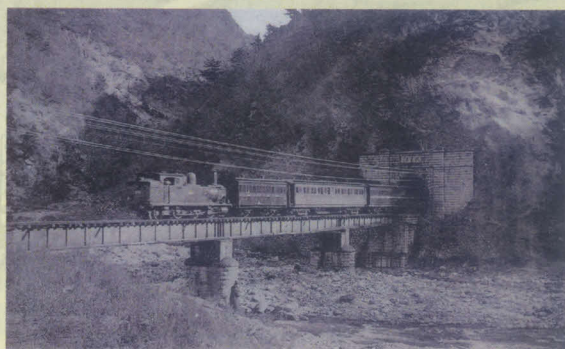


近代日本を駆け抜けた山梨の鉄道人たち

日本の近代化のあゆみは鉄道とともにありました。より速く、大量に、日本の社会を大きく変えて来たその150年の歴史には、多くの人々の叡智と情熱が刻まれています。そのような日本の鉄道の発展の物語のなかには、さまざまな山梨の鉄道人たちの綺羅星のごとき輝きをみることができます。彼らの夢が人々の喜びへと変わるまで、山梨の鉄道人たちの足跡とその思いを追いかけてみましょう。

山梨に鉄道を — 夢の中央線と身延線 —

令和5年(2023)に、中央線が甲府まで開業してから120周年を迎えます。日本で最初の鉄道ができてから約30年のちのことです。まだ見ぬ鉄道への山梨の人々の熱望が高まるなかで、中央線や身延線の開業は、「甲州財閥」の人物らの手によって進められました。



当時日本最長の管子隧道を走り抜ける列車(明治時代)
山梨県立博物館蔵

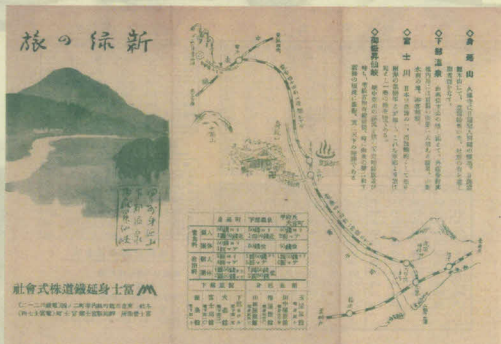


富士身延鉄道(身延線)建設功労者碑(身延町)

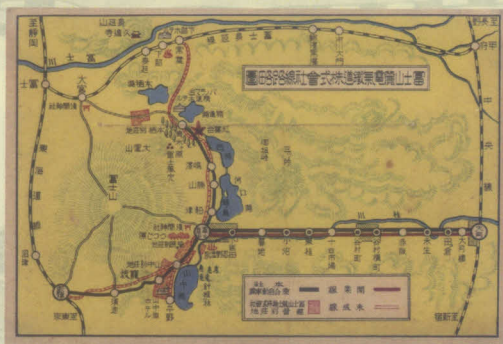


鉄道と近代化

「甲州財閥」の人々は、鉄道で交通を便利にすることが、地域や国の産業の発展に直結するのだと考えていました。彼らは事業としての鉄道の経営とその将来性、そして鉄道の社会における役割を知り尽くし、山梨にとどまらず各地で鉄道の恩恵をもたらしていきました。



「新緑の旅」(富士身延鉄道(身延線)パンフレット) 個人蔵



富士山麓電気鉄道開通記念絵葉書 山梨県立博物館蔵

新しい大衆文化と社会生活

都市が拡大し、会社や工場で働く人々が増加していった大正時代、人々のくらしや社会の在り方も大きく変化していきました。大きな変化に直面した東京や大阪で、新しい交通のあり方を率先し、鉄道経営の多角化や新たな生活スタイルをもたらしたのも山梨の鉄道人でした。



東洋唯一 東京地下鉄道絵葉書
(10銭白銅貨をもちいた日本初の自動改札) 個人蔵



みのおりまでんききどう
筑面有馬電気軌道の終点にオープンした宝塚パラダイス
〔宝塚少女歌劇二十年史〕より

展示で紹介する人物 ▶ 若尾逸平、渡辺青洲、雨宮敬次郎、小野金六、根津嘉一郎、堀内良平、小林一三、河西豊太郎、早川徳次(誕生順)

教育普及講座 山梨の生んだ鉄道人 — 若尾・雨宮・根津 —

- ❖日時:4月23日(日)午後1時30分~3時
- ❖会場:山梨県庁舎別館3階正庁
- ❖講師:齋藤康彦氏(山梨大学名誉教授)
- ❖参加費:無料
- ❖定員:40名(事前申し込みが必要)

このほか、毎月1回程度、展示紹介人物についてより深く知っていただくための教育普及講座を開催いたします。講座のテーマについては、当館ホームページなどをご確認ください。ご参加をご希望の方は事前にお申し込みください。予定は変更になる場合があります。